



ニューヨークで日本の工芸品を PR ～現代アートを中心チェルシー地区にある日系ギャラリー～

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 松本 達也 (さいたま市派遣)

ニューヨーク市マンハッタン区の南西部にある「チェルシー」地区は、現代アートの中心地といわれています。現在 500 軒以上の現代アートギャラリーが軒を並べるこの地区に、日本人が経営するギャラリーが数軒あります。

そのひとつ「大西ギャラリー」は日本の優れたアートを紹介するだけでなく、地域の工芸品の海外プロモーションを行う自治体の支援も行っています。同ギャラリーのオーナーである大西なな氏に、ニューヨークでのこれまでの取り組みや、自治体の支援の様子、出展のアドバイス等について伺ったので紹介します。

大西ギャラリー

大西なな氏は、日本で金沢美術工芸大学を卒業後、ニューヨークに移り、プラット・インスティテュート大学院で現代美術とアート・マネージメントについて学びました。

その後 2005 年 12 月に、ニューヨーク市のチェルシー地区にギャラリーをオープン。同氏は、翌年 2006 年に行われた「9・11 追悼イベント」で、日本の「供養」をテーマにしたアート・プロジェクトを実施して高い評価を受け、2009 年のニューズウィーク紙（日本版）の「世界が尊敬する日本人 100 人」に選ばれました。

大西ギャラリーの専属作家には、史上最年少で人間国宝となった十四代今泉今右衛門をはじめ、加賀家^{ぞうがん}嵌^(注)作家で人間国宝の中川衛、九谷焼作家の徳田八十吉三代・四代など日本工芸のトップクラスが名を連ねます。それらの作家の作品はメトロポリタン美術館、スミソニアン・インスティテュート、大英博物館等の永久収蔵品にもなっています。

同ギャラリーでは、日本の現代工芸に加え、米国の現代美術キュレーターや海外のギャラリーとのタイアップ

によって、日本の作家と海外の作家の作品を織り交ぜた展覧会を多く開催してきました。また、国際的なアートフェアやイベントへ積極的に参加し、今年 12 月には、フロリダ州マイアミビーチで開催される、出展ギャラリー数 250 以上、来場者 7 万人超の北米最大級のアートフェア「Art Basel in Miami Beach」へ 4 回目の出展を予定しています。

さらに、大西ギャラリーでは、インテリアデザイン会社等とのコラボレーションにより、ギャラリーの一室をまるごとモデルルームのように装飾して、日本の工芸品などを展示することも検討しています。アメリカのライフスタイルの中にあっても日本美術やデザインの美しさが引き立つ展示を行うことにより、さらなる日本のアートの浸透につながる事が期待されます。



大西ギャラリー

日本の自治体を支援

大西ギャラリーでは、47 の都道府県ごとにそれぞれユニークな文化、芸術、食文化があることに着目し、自治体が効果的に地域の魅力を PR しつつ、工芸品の新たな販路開拓を進めるための支援も行っています。

同ギャラリーがこれまで実際に行ってきた自治体支援の事例をいくつか紹介したいと思います。

マイ・ジャパニーズ・ディスカバリーズ：富山県

大西ギャラリーは、日本の地方都市の美術・工芸をシリーズで紹介するプロジェクト「マイ・ジャパニーズ・ディスカバリーズ」を2014年に開始しました。海外からの観光客は、地方都市に行く機会はあまり多くありませんが、同プロジェクトはそうした地域の文化や歴史、工芸品をその土地を訪れたような感覚で鑑賞・経験してもらおうというものです。ギャラリーの来場者は、地方の美術品や実用的な工芸品に直に触れたり、その地域の地酒や特産品をテイスティングすることで、より親しみを持ち、日本文化に触れることができます。また、そうすることで、普段の生活の中で工芸品を実際に使ってみたいと感じてもらおうことを狙っています。

このプロジェクトの第1弾となったのが、「マイ・ジャパニーズ・ディスカバリーズ：富山県」です。この展示会では、同県内の10社が特産品を紹介し、また、人間国宝で鍍金作家の大澤光民氏、同じく鍍金作家の般若保氏、越中瀬戸焼の陶芸作家の釋永由紀夫氏の3人の工芸界の巨匠の作品も展示されました。

オープニングレセプションでは、高岡市の鋳物メーカー「株式会社能作」の金属製のプレートと、「天野漆器株式会社」の酒器を使用し、ニューヨークの有名レストラングループのオードブルと富山県の地酒を提供したところ、作品だけでなく、地酒や食器に対する反響も大きかったそうです。

富山県は、翌2015年にも県内の若手工芸作家の作品を中心に同ギャラリーでの展示会を行っています。その際には工芸品だけでなく、会場の一角に観光用のブースを設置し、地域の魅力発信にもつながりました。



富山県の展示会

ちゅらぬめ：沖縄の工芸展

2016年11月には、沖縄県が沖縄の伝統染織物作品の展示イベント「Churanunu: Kogei from Okinawa」を開催しました。会場には、人間国宝・平良敏子氏の作品や、沖縄県指定染物産地の染織物だけでなく、伝統工芸技術を活かしつつ、現代生活風アレンジされたかばんや髪飾りなどモダンな若手作家の作品も展示されました。

オープニングレセプションでは、沖縄の伝統工芸の歴史や染物の制作過程のスライド上映や、染織物職人による展示物の説明が行われました。また、沖縄の地ビールや泡盛、琉球伝統菓子を使ったオードブルなども提供され、沖縄の持つユニークな歴史や文化をアートとともに紹介することに成功し、来場者にとって、沖縄の魅力を堪能する機会になりました。



沖縄県の展示会

「とちぎの器」展示会

2017年2月には、栃木県が、県伝統工芸品指定の陶磁器の展示会「「とちぎの器」ニューヨーク販路開拓事業 (Japanese Ceramic Tableware from Tochigi)」を開催しました。会場には、ニューヨークで活躍する栃木県出身の彫刻家で、栃木県未来大使を務める森戸泰光氏の作品をはじめ、益子焼や小砂焼、みかも焼の食器類約250点が展示されました。落ち着いた色合いのおちょこや可愛らしいデザインのマグカップ、色鮮やかな大皿等、個性豊かな作品は、展示期間中に約半数が購入され、「日常使いの逸品」として、ニューヨーカーに受け入れられていました。



初日のオープニングレセプションでは、同県の紹介ビデオや福知事からのメッセージが上映され、森戸氏による益子焼のプレゼンテーションが行われました。また、同県産の日本酒やワイン、特産物も来場者に振る舞われ、参加者からは本展示会ではじめて栃木県を知ったが、日本を旅行した際には訪れてみたいという声も聞かれました。



栃木県の展示会

自治体へのアドバイス

大西氏は、素晴らしい技術を持ち海外に作品を発信したいという熱意がありながら、十分な資金やノウハウがないために実行に移すことのできない事業者の海外進出を、自治体の支援を通じて後押ししたいと話してくれました。

自治体がニューヨークで工芸品等の展示会を検討する際は、前もって気軽に相談してほしいといいます。

たとえ日本の技術が素晴らしくても、作品のサイズ感や色合といったデザインの嗜好が日本とニューヨークとは異なるため、そのまま持ってきても通用しないものが多いそうです。伝統的な技法や素材といった日本の作品の良いところは残したまま、ニューヨークで受け入れられるテイストにする必要があります。さらに、日本では作品を布や板などの上に置くことが多いですが、ニューヨークでは白い台などの上に直接作品を置くなど展示の仕方にも違いがあるため、どのように作品を配置して魅力を伝えるのかも考慮しなければなりません。

大西氏は元々アーティストであり、日本の伝統工芸の良さを知った上で、ニューヨークで受け入れられるテイストを熟知しているからこそ、これまでの自治体支援においても、時には日本まで実際に足を運び、自治体や制作者に適切なアドバイスを行ってきました。

アート業界の商習慣やプレゼンテーション方法の違いのあるニューヨークで、自治体が単体で展示会を行うことはハードルが高いかもしれませんが、日米のアート業界に精通している大西氏に言葉の壁がなく相談できることは、自治体にとって非常に心強いものと思われます。

興味のある方は

大西ギャラリーでの展示を行い、工芸品の魅力を発信することで、個人の購入だけでなく、レストランでの使用やデパートでの取り扱いが始まることもあり、販路開拓の可能性は大きいといえます。さらに、自治体の魅力を海外で発信する機会にもなり、インバウンドにもつながることが期待されます。

大西ギャラリーで伝統工芸品を展示することにご興味がありましたら、まずは大西ギャラリーへ連絡してみたいでしょうか。

また、クレアニューヨーク事務所でも本件に関するご相談に応じておりますので、どうぞお気軽にお問い合わせください。



ギャラリーオーナーの大西なな氏

【大西ギャラリー】

電話番号：+1-212-695-8035

Email：info@onishigallery.com

ホームページ：http://onishigallery.com/

【(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所】

電話番号：+1-212-246-5542

Email：jlgc@jlgc.org

ホームページ：http://www.jlgc.org/

(注) 金属、陶磁器、木材などに模様を刻み込み、そこに金銀その他の材料をはめ込んで装飾を施す技法